

# 音楽堂

# 舞踊の会

いざ、日本の美——

清元  
「傀儡師」

西川扇藏 箕乃助 改メ

浄瑠璃 / 小千代 (金沢ひがし芸妓)

清元志寿子 太夫 ほか

三味線 / 清元志寿造 ほか

地歌

「本行 四季の山姥」

山村友五郎

地歌 / 菊央雄司

箏曲

「長恨歌曲」 舞踊新作

吾妻徳穂

花柳寿楽

箏 / 山勢松韻 (人間国宝) ほか

三絃 / 山登松和

笛 / 福原 徹

囃子 / 藤舎呂英社中

\*13時30分プレトーク 村上湛 (音楽堂邦楽主幹)



山村友五郎  
YAMAMURA  
TOMOGORO



西川扇藏  
NISHIKAWA  
SENZO



花柳寿楽  
HANAYAGI  
JURAKU



吾妻徳穂  
AZUMA  
TOKUHO

9/28日 10:00 一般発売開始  
邦友会会員先行予約 ▶ 9/27日 10:00~

全席指定 \*邦友会・OEK定期会員10%割引(B席除く)  
S席 6,000円 A席 5,000円 B席 1,500円

音楽堂チケットボックス TEL 076-232-8632

チケット・お問合せ

窓口 9:00~19:00 / 電話 10:00~18:00

▶WEBからの購入もできます  
<https://www.ongakudo.jp>

チケットぴあ ローチケ セブンチケット チケミー

令和6年 12/28日 14:00 開演  
(13:15 開場)

石川県立音楽堂 邦楽ホール

JR金沢駅兼六園口(東口)徒歩1分  
\*音楽堂休館日 10/15 11/18 12/16

託児ルーム(有料)あります。ご利用の方は12/18(水)17時までに音楽堂事務局(TEL076-232-8111)にお申し込みください。

主催=(公財)石川県音楽文化振興事業団  
共催=北國新聞社、(一財)石川県芸術文化協会

# 音楽堂 舞踊の会

身体・音曲・美術が一体となった我が国の舞台芸術の精華「日本舞踊」。  
今年も現代最高峰の立方、演奏家が集結し、趣向を凝らした3番を上演します。  
日本が誇る伝統美の神髄を伝える珠玉の舞台です。

解説 石川県立音楽堂邦楽主幹 村上湛

## 清元「傀儡師」

立方 西川扇藏 箕乃助 改メ

浄瑠璃 / 小千代(金沢ひがし芸妓)

清元志寿子 太夫 ほか

三味線 / 清元志寿造 ほか

人形師の大道芸を語る清元の名曲(傀儡師)には、ひがし茶屋街の名妓・小千代さんを特に立テ(主唱者)に迎え、男性の名手たちで周囲を固めて、金沢の至宝と言わべき清艶古雅の名調を存分にご堪能頂きます。こうした男女混成の編成は実に稀少です。

紋付袴を身にまとい、白塗りの化粧を施さない「素踊り」に一生を懸けた亡き先代・西川扇藏さんは大変な名人でした。その嗣子として師父の衣鉢を継ぎ、新旧の作品でさまざま果敢な試みを重ねる当代・十一世 西川扇藏さんは、大流儀の屋台骨を背負う逸材。(傀儡師)は西川流宗家のお家芸である洒脱な風俗描写で成り立ちます。亡き扇藏さんもお得意だった名作です。

撮影 篠山紀信



西川扇藏  
NISHIKAWA  
SENZO



小千代  
KOCHIYO

## 地歌「本行四季の山姥」

立方 山村友五郎

地歌 / 菊央雄司

地歌(山姥)は世阿弥の能の詞章から採った名曲で、大自然の精魂から変化した鬼女が深山を駆け巡る壮大な曲想。京・大坂の生活音楽だった地歌は三弦の弾き歌いが原則ですので、歌と三味線とともに卓越した技法が求められます。大坂伝来「菊筋」の芸系の正統を受け継ぐ菊央雄司さんは、明日の地歌界を背負って立つべき逸材。歌つてよし、弾いてよし、いよいよ腕の冴えた芸盛りを迎えています。

山村友五郎さんは大坂随一の大流派・山村流の総帥であるのみならず、宝塚歌劇団ほか外部の振付も沢山手がけられ、席の温まる暇のない活躍ぶりです。日本舞踊の源泉となる能のことを「本行」と称しますが、今回は素の姿でなく能装束に準じた衣装付きで能舞台をイメージした演出のもとに舞われるため、特に「本行(四季の山姥)」と銘打たれています。山村流ことに重く扱われる貴重な演目です。

撮影 篠山紀信



山村友五郎  
YAMAMURA  
TOMOGORO



菊央雄司  
KIKUO  
YUJI

## 箏曲「長恨歌曲」

舞踊新作

立方

楊貴妃 吾妻徳穂  
方士 花柳寿楽

箏 / 山勢松韻(人間国宝) ほか

三絃 / 山登松和

笛 / 福原 徹

山田流箏曲は江戸時代後期の江戸で起り、生粋の江戸文化に支えられて興隆を極めました。現在も東京を中心に優れた演奏家によって支えられています。流祖・山田検校の流れが家元四家に伝承される中、山勢派六代家元・山勢松韻さんは文字どおり邦楽界の頂点に立つ偉大な存在です。人間国宝・日

本芸術院会員・文化功労者・文化勲章受章の「四冠」は他に類を見ません。もともと山田流箏曲は演奏専門で、舞踊を伴う試みは近代になってごく少数に限られた演目のみでしたが、今回、邦楽主幹・村上湛の長年の切望を実現すべく、玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋を語る至高の名曲(長恨歌曲)全曲を初めて舞踊化します。

吾妻徳穂さんのおばあさま・先代徳穂さん。花柳寿楽さんのおじいさま。先代寿楽さん。お二人とも昭和の戦後を代表する真の名手で、その華麗で圧倒的な舞台は今も鮮やかに語り伝えられ、後継お二人にも確かに伝承されています。今回は徳穂さんの楊貴妃、寿楽さんの方士(玄宗皇帝の使者で幻術士)によって、能の名作(楊貴妃)の世界を背景にしつつ、それから自在に飛躍する山田流箏曲の古典的名曲を、お二人それぞれの新振付によって情感豊かに立体化したと思います。

撮影 篠山紀信



花柳寿楽  
HANAYAGI  
JURAKU



吾妻徳穂  
AZUMA  
TOKUHO



山勢松韻  
YAMASE  
SHOIN